

創立40周年記念



障害がある人々が健康を維持するための取組み

－ 医療・スポーツ・レクリエーションを通じた疾病予防と健康増進 －

日時 令和2年2月16日（日）13:30～17:10（12:30開場）

場所 東京国際フォーラム
ホールD7

〒100-0005
千代田区丸の内3丁目5番1号



©TOKYO INTERNATIONAL FORUM CO., LTD.

席数 120席（車いす席あり）

使用言語 日本語及び英語（同時通訳）要約筆記 手話通訳

申込方法 メールまたはFAX
（所定の申込書をお送りください）



2月13日（木）
申込締切

入場
無料

開催趣旨

2011年にWHOと世界銀行によって発表された「障害に関する世界報告書」によると、障害のある人々は、一般の人々と比べて、二次的な疾患や合併症のリスクが高いにもかかわらず、その疾病予防や健康増進のための取組みは、一般の人々と比べて不足していることが指摘されています。

障害のある人々が疾病予防や健康増進のためのさまざまなプログラムにインクルーシブにアクセスできるような環境をいかに提供するかということは、我々にとってきわめて重要な課題であります。

本セミナーでは、障害のある人々が健康を維持するための予防医療、スポーツ、レクリエーション活動などに関する各国の取組みについて、オーストラリア、中国、韓国及び日本の各専門家に報告していただくとともに、障害のある人々の疾病予防と健康増進に関する現状と今後の課題について議論し、理解を深めていきたいと思います。

講演・パネルディスカッション

基調講演

「障害がある人々の健康増進」

飛松 好子 国立障害者リハビリテーションセンター総長

発表

1 「障害を含めた医療サービスと健康増進の取組み」

Cathy Vaughan メルボルン大学 グローバルヘルス・人口学部 講師

2 「脊髄損傷者の運動・スポーツ」

Bum-Suk Lee 韓国国立リハビリテーションセンター長

3 「子どもの脊髄損傷の疫学的特徴並びに予防とマネジメント」

周 紅俊 中国リハビリテーション研究センター 脊髄損傷リハビリテーション部長

4 「横浜におけるリハビリテーション・スポーツの実際と地域環境整備」

宮地 秀行 障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール スポーツ課長

5 「日常生活に運動を取り入れることは疾病予防と健康づくりを推進する
－健康づくりプログラムの開発と実践について－」

樋口 幸治 国立障害者リハビリテーションセンター病院リハビリテーション部
運動療法士長

ディスカッション 質疑応答

主催

国立障害者リハビリテーションセンター
（WHO指定研究協力センター）



事務局

国立障害者リハビリテーションセンター 企画課 国際協力室

TEL 04-2995-3100（内線2150/2149） FAX 04-2995-3661

E-MAIL whoclbc@mhlw.go.jp